

科学技術コミュニケーション推進事業「ネットワーク形成型」平成27年度採択企画
「健康まちづくり」を創発する協働型市民フェスタ事業の推進」

終了報告書

平成30年1月23日

特定非営利活動法人市民科学研究室

目 次

1. 概要	
1-1. 企画名称	1
1-2. 提案機関	1
1-3. 企画担当者	1
1-4. 企画の実施期間	1
1-5. 企画概要	1
1-6. 企画の背景・経緯	1
1-7. 期待される効果（企画提案時）	1
1-8. 目標	2
1-8-1. 長期目標	2
1-8-2. 年度目標	2
（1）平成 27 年度年度目標	2
（2）平成 28 年度年度目標	3
1-9. 実施体制	3
2. 企画の達成状況	4
3. 活動実績	12
4. ネットワークの活用・構築の状況	14
5. 成果及び波及効果	15
6. 自己評価	16
7. 外部評価	17
8. 成果の展開、発展させるビジョン	18

1. 概要

1-1. 企画名称

「健康まちづくり」を創発する協働型市民フェスタ事業の推進

1-2. 提案機関

特定非営利活動法人市民科学研究室

1-3. 企画担当者

提案機関業務主担当者：上田昌文（NPO 法人市民科学研究室・代表理事）

提案機関業務副担当者：江間有沙（NPO 法人市民科学研究室・理事）

1-4. 企画の実施期間(実施協定の業務実施期間を転記)

平成 27 年 7 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

1-5. 企画概要

本企画では東京都文京区という地域を主たる対象にして、「地域」への関心、「科学」への関心、「健康」への関心を相互に関連付けて、地域の人々が健康に住まうことの意識の向上を自然に創発できるようなモデル事業を推進する。地域の NPO、医療の専門家、行政・学校教育関係者、地元企業などが連携し、種々の調査活動、ワークショップ、対話型ゲーム、学術講座などを組み合わせて、最終的に「健康まちづくりフェスタ」（「地域ウォークラリー」と「地域サイエンスマップ・研究発表会」）に結実させる。それらのイベントを通して地域全体の健康への関心を高めるとともに、他地域への波及を可能にする、「健康まちづくり」の創発の手法を提示する。

1-6. 企画の背景・経緯

心筋梗塞や脳梗塞やガンなど日本人の死因の大半を構成する生活習慣病ならびに、高齢化の進展に伴って顕著な増加を示している認知症への対処を念頭に置き、病をもたらしている状況を人と人とのつながりややりとりの中で互いに認識し、それをどう受けとめて変えていけるのかを共に考える、というコミュニケーション的なアプローチを実践する。そのために、身近に多様な人々が住まうことで相互に多様な接点を持ちえる「地域」に立脚して、「地域」と「科学」と「健康」の相互関連を見据えての枠組みのもと、以下の 3 段階で活動の展開をはかる。本事業は「地域」「科学」「健康」の相互関連を見据えて、2015 年度の成果をふまえて、次の 3 段階（Stage I から Stage III）で活動の展開をはかる。

1-7. 具体的な成果（企画提案時）

2015 年度で対象とした文京区については、今年度中に Stage III まで実施し、2017 年度に区行政もしくは住民団体（商店組合や自治会を含む）主体での実施につなげる。他地域への波及に関しては、まず今年度中に谷根千地域としてすでに調査を行っている台東区を第一とし、それに加えて、文京区近隣の区（豊島区、板橋区、荒川区など）のうちのひとつを第二として、実施可能性の調査と打診を行う。

Stage I：連携機関による地域調査とそれをふまえた Stage II、Stage III の詳細設計

a) 地域調査の検討会を兼ねた「連携協議会」、b) Stage II 及び Stage III に関連して、協力・協賛をお願いする諸個人・諸団体に対する連絡、ヒアリング、協議などの実施（近隣区の調査と打診を含む）、c) 「健

康まちづくり」に関わる全国各地の参考事例・データの収集と分析（関連学会への参加を含む）、d) 街歩きのための新しいツールとして ICT を活用したシステムの検討・開発・実験、e) 専用ホームページの「健康まちづくり あの手この手」更新作業、f) 「健康まちづくりフェスタ in 文京」パンフレットの作成、g) 文京区内の「まちづくり」関連イベントへの参加・出展、h) 外部評価委員会の実施

Stage II：各種イベントの実施とその成果の Stage III への反映

a) 主として区内のシニアを対象としたボール・ウォーキング講座の実施、b) 連続講座「“健康まちづくり”を考える」の実施、c) 連続企画「健康まちづくり」カフェの実施、d) 医療保健関係者・事業者へのネゴバトの周知と住民を対象とした実施企画の支援、e) 世代間交流食育のコンテンツの開発・試験的实施と特養施設での展開、f) 「食育カード」の開発・制作と区内のレストラン等店舗での展開、g) 「地域サイエンスマップ（健康まちづくり）」まち歩きの実施、h) 夏休み自由研究サポート（地域サイエンスマップまち歩き体験会）

これらの活動をすすめながら、区内の諸団体にも協力・協賛を呼びかけ、

Stage III：健康まちづくりフェスタの実施

につなげる。フェスタは 10 月と 3 月のいずれかの日曜日を予定している。ここでは 100 人規模の参加者を見込み、それぞれの 2 つのエリアで、「まち歩きコース」とその途中 3 箇所でのワークショップ（食事もとる）を体験することで、「健康まちづくり」について体験的に総合的に楽しく学べるようにする。周辺区をはじめ関心のある他地域の自治体の職員やまちづくりに関心のある NPO や商店組合・自治会の方々にも声がけして参加を呼びかけ、他地域への普及の足がかりとする。

1-8. 目標

1-8-1. 長期目標

初年度の文京区での「地域ウォークラリー」（健康まちづくりフェスタの中核イベント）の試験的实施を受けて、2 年目には文京区での行政らとの連携によるフェスタの本格的に実施する。そして近隣区（台東区ならびに豊島区や練馬区などのうちから 2 つの区）での展開のための準備作業も同時にすすめる。そして最終年度においては、地域の中から実施主体（行政、学校、自治会など）を選び出して担っていく体制を確立しての本格実施を実現する。そうした一連の実施をとおして、「健康まちづくり」の創発として、将来的に他地域への普及をはかっていくための、地域の特性に応じた適用が可能なモデル・手法を提示する。

1-8-2. 年度目標

（1）平成 27 年度年度目標

初年度の「ウォークラリー」の試験的实施（プレ「フェスタ」）において、親子を含めて数十名から最大 100 名（10 グループ）の参加を見込んでいる。この実現をはかるために、上記「ネゴバト」、「子ども料理科学教室」、「地域健康談話会」、食・睡眠・運動・認知症などの「最新医学講座」を、それぞれ数回実施し、のべ参加人数 300 名の達成を目標とする。また「地域サイエンスマップ」作りや「地域健康談話会」の参加者の中から、地域調査の担い手になる人を見出していくが、そうした人を少なくとも数人は確保するようにしたい。

（1）「ネゴバト」ワークショップ 5 回（7 月～3 月に隔月に 1 回程度）

（2）「子ども料理科学教室」15 回（立川市ですでに始まっている企画の 10 回分を含む）

（3）「地域健康談話会」5 回（7 月から隔月で 1 回程度）

- (4) 食・睡眠・運動・認知症などの「最新医学講座」各 1 回で計 5 回
 - (5) 「地域サイエンスマップ」の原案の完成と学童向け自由研究サポート事業（7,8 月）
- 以上の活動に参加する地元住民ののべ参加者数 300 名を目標とする。

- (6) 11 月に「地域ウォークラリー」の試験的实施（親子を含めて 60 名の参加）
- (7) 連携協議会 6 回（7 月から隔月で 1 回から 2 回）
- (8) 文京区の行政、教育関係、企業、商店、自治会などへの渉外活動（多数回）

（2）平成 28 年度年度目標

① Stage I：連携機関による地域調査とそれをふまえた Stage II、Stage III の詳細設計

- a 地域調査の検討会を兼ねた「連携協議会」を 2015 年度と同じく、月 1 回ペースで実施（12 回）
- b) Stage II 及び Stage III に関連して、協力・協賛をお願いする諸個人・諸団体に対する連絡、ヒアリング、協議などの実施（近隣区の調査と打診を含む）（30 回）
- c 「健康まちづくり」に関わる全国各地の参考事例・データの収集と分析（関連学会への参加 2 回を含む）

d) 街歩きのための新しいツールとして ICT を活用したシステムの検討・開発・実験

e) 専用ホームページの「健康まちづくり あの手この手」更新作業（毎週）

f) 「健康まちづくりフェスタ in 文京」パンフレットの作成（5 月末完成）

g) 文京区内の「まちづくり」関連イベントへの参加・出展（3 回）

h) 外部評価委員会の実施

② Stage II：各種イベントの実施とその成果の Stage III への反映

a) 主として区内のシニアを対象としたポール・ウォーキング講座の実施（全 10 回）

b) 連続講座「“健康まちづくり”を考える」（全 10 回）の実施

（10 月からは文京区の区民プロデュース講座の枠を使って実施）

c) 連続企画「健康まちづくり」カフェ（全 10 回）の実施

d) 医療保健関係者・事業者へのネゴバトの周知と住民を対象とした実施企画の支援（5 回）

e) 世代間交流食育のコンテンツの開発・試験的实施と特養施設での展開（全 5 回）

f) 「食育カード」の開発・制作と区内のレストラン等、30 店舗での展開

g) 「地域サイエンスマップ（健康まちづくり）」まち歩きの実施（全 10 回）

h) 夏休み自由研究サポート（地域サイエンスマップまち歩き体験会）（夏休みに 4 回）

③ Stage III：健康まちづくりフェスタの実施

a) 「健康まちづくり 秋フェスタ in 文京」を実施（10 月、2 つのエリアで）（1 回、参加者約 100 人）

b) 「健康まちづくり 春フェスタ in 文京」を実施（3 月、2 つのエリアで）（1 回、参加者約 100 人）

1-9. 実施体制

（1）提案機関である NPO 法人市民科学研究室は、次の 3 つの参加機関と連携してこの事業をすすめてきた。

・みんくるプロデュース：（医療者と一般市民が対話する少人数を基本としたカフェ型コミュニケーション「みんくるカフェ」や他団体とのコラボ企画およびワークショップなどのイベントを 2014 年 7 月

までに約 50 回開催。その他、保健医療分野のファシリテーターを育成する「みんくるファシリテーター育成講座」の開講や、保健師を対象とした「みんくるプロデュース地域診断プロジェクト」を 2013 年度に東京都練馬区、2014 年度に千葉県銚子市をフィールドとして実施。

- ・東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST：東京大学の学生による科学サークル。日本科学未来館での体験型科学イベント「サイエンスリンク・キミとカガクをつなぐ夏-」、川崎市・東芝科学館での「サイエンスリンク」などへの出展、各地の公民館や小学校での出張実験教室の実施、科学読み物の出版協力など、さまざまなサイエンスコミュニケーション活動を行っている。）

- ・谷根千工房：1984 年に女性 3 人による地域雑誌『谷根千（やねせん）』を創刊、2009 年 8 月をもって刊行を終了した（サントリー地域文化賞、NTT タウン誌大賞などを受賞）。旧東京音楽学校奏楽堂のパイプオルガン復元、東京駅・上野駅の保存、不忍池の地下駐車場問題などにも参加。現在は、「谷根千〈記憶の蔵〉」を拠点としてイベントや上映会などを不定期に開催している。

(2) ただし、上記の CAST については、「まち歩き」を中心にした医療・保健面での科学についてはこれまでの経験や蓄積がほとんどないため、イベントに際しての補助を依頼することとなったが、日程的な都合があわないこともあって、実際にはこの事業にほとんど関与していない状態となっている。

(3) 「みんくるプロデュース」ならびに「谷根千工房」とは次の事業において連携をはかっている。

- ・連携協議会（毎月 1 回の、研究会をかねた運営会議）を 2016 年 8 月まで実施
- ・まち歩き企画では、谷根千工房の山崎氏らから随時助言をいただいている
- ・「銭湯でまちつなぎ ～月の湯をしのび、銭湯の地域力について語り合う～」、第 2 回「認知症について語り合おう in 文京」を「みんくるプロデュース」、ワークショップ「いつまでも美味しく食べるために～飲みこむ力と老いを考える～」を「みんくるプロデュース」と共催
- ・「ネゴバト体験会」での協力とアンケート解析を「みんくるプロデュース」が主として担当している
- ・種々の取材やヒアリングを「みんくるプロデュース」と共同で行ってきた

2. 企画の達成状況

【H27 年度】

- ・主担当・副担当・市民研代表理事らによる事業の展開策の検討と決定、連携機関の協議体制の確立、ならびに今年度の事業の一部の展開策の検討と決定（当事業専用ホームページの制作準備を含む）
 - ・地域の健康調査（谷根千地域を主対象とする地域診断的な調査）のあり方の検討
 - ・「地域サイエンスマップ」、地域調査ならびに地域での本事業実施全般に関するヒアリング（第 74 回日本公衆衛生学会大会への参加を含む）
 - ・「文京区区民部協働推進担当課」の企画への参加による、文京区ならびに区在住の他の NPO との連携の可能性の追求（「文京ミライ対話」「文京区 NPO フェア」への参加・出展など）
- 対外的イベントを含む実施事項は次の通りである。

(1) まち歩き企画の実施

「Let's！谷根千まち歩き」「Let's 本郷まち歩き」（市民科学研究室&みんくるプロデュース）の実施、
「健康まちづくりウォーキング」（フェスタのプロトタイプのプレイベント）の実施

(2) 子ども料理科学教室のプログラムのブラッシュアップならびに新しい食育イベントの設計

(立川市での子ども料理科学教室、ポラン広場「食の収穫祭」にて「子ども料理科学教室」のブース出展、文京区社会起業フェスタ 2016 での食育活動についてのプレゼン、世代間交流食育の試験的実施

(3) ネゴバトのゲームパッケージの完成ならびに普及・展開に向けての活動

日本公衆衛生学会での「ネゴバト」ワークショップの実施、企業(ANA Cargo 社)での実施、都内高校での実施など

(4) 参加型ワークショップの実施

「認知症について語り合おう in 文京」の実施

【H28 年度】

当初掲げた年度目標に沿いながら、達成度ならびに変更点とその理由を記す。

①Stage I : 連携機関による地域調査とそれをふまえた Stage II、Stage III の詳細設計

a) 地域調査の検討会を兼ねた「連携協議会」を 2015 年度と同じく、月 1 回ペースで実施

4 月から 9 月までは毎月実施した。10 月以降は、協議会自体を開くというより、それぞれの連携団体(「みんくるカフェ」「谷根千工房」)のメンバーが所属してすすめている研究会や団体定例会に市民科学研究室の上田も出席する形で、必要な連絡と打合わせを行っていくことにした。「本郷まちづくり研究会」(月 1 回)、「富士見坂を守る会」(隔月)、「まちの保健室勉強会」(隔月)がそれにあたる。

b) Stage II 及び Stage III に関連して、協力・協賛をお願いする諸個人・諸団体に対する連絡、ヒアリング、協議などの実施(近隣区の調査と打診を含む)

フェスタにご協力いただく諸個人(スタッフを含む)や諸団体、まち歩きに関連しての資料や情報をご提供いただいた「文京ふるさと歴史館」、フェスタの過地域への拡張に関して打ち合わせを行った、目黒区区議(山本ひろこ議員)ならびに草加市の「まちの保健室 陽だまり」のスタッフの方々などの打ち合わせが行われた。谷中にある「おくすり処花水樹」、文京区訪問看護ステーション「けせら」、文京区保健センターなど、医療保健関係のヒアリング、そして論文などの資料調査をふまえての、浦安介護予防フェアへの参加、台東区保健所の取材、多摩区役所保健福祉センターの取材、大田区「みまーも」の取材、千葉県緑保健福祉センター健康課の取材、塩竈市保健センターの取材、「みんなの保健室陽だまり」への参加、浦安市包括支援センターの取材を実施した。さらに文京区ソーシャルイノベーションフォーラムへの参加、も行った。これらは、3 月に実施した「第 2 回健康まちづくりフェスタ」のなかの企画 ワークショップ「まちの元気・まちの健康を創発する住民交流とは」(3 月 4 日実施)などの準備とネットワーク構築のためになされた。

c) 「健康まちづくり」に関わる全国各地の参考事例・データの収集と分析(関連学会への参加を含む)

文京区社会福祉協議会「フミコム」主催の種々のイベント、日本公衆衛生学会、ヘルスコミュニケーション学会、IT システム(音声ガイド、「思い出覗き窓」など)開発との関連で「シンポジウム「なぜポケモン GO は人を動かしたのか〜コンテンツと日常の融合の可能性〜」」などに参加したり、東大総合研究博物館の見学とスタッフとの意見交換を行ったりした。また、東京大学医学部図書館において『保健師ジャーナル』のバックナンバーの関連論文を精査したりするなどして、“健康まちづくり”に関連する全国の事例の収集と整理を行った。また、これらは 3 月に実施した「第 2 回健康まちづくりフェスタ」への広報もかねて、市民科学研究室ホームページいくつかの取材結果をとりまとめた報告を掲載した(ホームページの「活動と資料」→「暮らしと地域をよりよくする」→「健康まちづくり」)。

d) 街歩きのための新しいツールとして ICT を活用したシステムの検討・開発・実験

開発を担当するスタッフ間で頻繁に打ち合わせを行い、タブレットを用いた「思い出覗き窓」(＝ヴァーチャルタイムマシン)とiPhoneを用いた「GPS 連動音声ガイド」のシステムを組み合わせ、まち歩きへの適用仕様を完成させることができた。これを10月に行われた「谷中芸工展」で土日を使っての計15回の体験会、ならびにサイエンスアゴラ2016でのブース出展、そして10月29日の「第1回健康まちづくりフェスタ」で披露した。2017年の第2回フェスタでは、これまでの実施の経験をふまえて、医学と医療に特化した「東京大学本郷キャンパスめぐり」と「本郷界隈のまち歩き」の定番コースを実施した(3月11日「音声ガイド／思い出覗き窓」東大構内・医史学散歩体験会、3月26日(日)13:00-17:00 駒込向丘エリアのミニまち歩き＋ワークショップ「まち歩きの可能性を探る」)。

e)専用ホームページの「健康まちづくり あの手この手」更新作業

これまでに実施したイベントの告知・募集や取材先の報告などの主だったものは、市民科学研究室のホームページの方で行うと同時に、この事業専用のホームページ「健康まちづくり あの手この手」でもいくつかを精選して、あるいは新規に掲載してきたが、それらをイベント実施の報告も含めて、市民科学研究室のホームページに集約することとした。今後の新たな展開においても、このホームページのコーナー(「活動と資料」→「暮らしと地域をよりよくする」→「健康まちづくり」))を利用することになっている。

f)「健康まちづくりフェスタ in 文京」パンフレットの作成

第1回(10月)と第2回(2017年3月)の両方の告知に使い、かつこの事業の基本コンセプトを伝えるために、専用パンフレットを作成した(印刷1万部)。

http://blogs.shiminkagaku.org/shiminkagaku/kenkou_pamph_omote.pdf

http://blogs.shiminkagaku.org/shiminkagaku/kenkou_pamph_ura.pdf

この事業で関わりのできたすべての人、取材先などにもれなく配布・手渡ししている。また第2回フェスタについては、それ専用のパンフレットを作成し(印刷3000部)、この2年間でネットワークを構築した関係先を含む数百箇所に郵送したり、各種イベントや取材先で手渡ししたりした。

<http://www.shiminkagaku.org/wp-content/uploads/20200020170301.pdf>

g)文京区内の「まちづくり」関連イベントへの参加・出展

文京区の社会福祉協議会が主体となった「文京区民センター・フミコム」が2016年から立ち上がることになり、そのオープニングイベントへの参加、隔月くらいの頻度で行われる「フミコム cafe」への参加、そして「文京区ソーシャルイノベーションフォーラム」への参加、「目白台運動公園フェスタ」や講演文京映画クラブへの協力などをとおして、多数の文京区の住民活動団体やNPOと知り合いになり、この事業への参画を呼びかけた。

h)外部評価委員会の実施

昨年度に引き続き兵藤好美氏(岡山大学大学院保健学研究科看護学分野基礎看護学領域・准教授)に外部評価していただいた。

②StageⅡ：各種イベントの実施とその成果のStageⅢへの反映

a)主として区内のシニアを対象としたポールウォーキング講座の実施(全10回)

今年度を実施したのは、文京区内で6回(午前と午後の部などをそれぞれ分けて数えると8回)、目黒区で2回である。これには、2017年3月での第2回フェスタで実施したものが含まれている(3月5日(日)10:00-12:00 ポールウォーキング体験会 in 文京、3月18日(土)10:00-12:00 中目黒ポールウォーキング)。当初の目標はほぼ達成できたといえる。文京区においては、行政側(区立目

白台運動公園における指定管理者の「西武パートナーズ」の協力のもとに行ってきたが、区の予算計画に組み込んでの区主体の実施には至っていない。この点はさらに交渉を続けてみるが、主としてシニア向けの「転倒予防」効果を確実に発揮するための定期的開催に向けた体制をどう作るか、が課題となっている。

b)連続講座「“健康まちづくり”を考える」(全10回)の実施

「健康まちづくり講座」として、次のイベントを実施した。それぞれ、実施の報告として公開されているものがある場合は、それを添えておく。

6月25日(土) 15:00-19:00 「銭湯でまちつなぎ ～月の湯をしのび、銭湯の地域力について語り合う～」

<https://jibunmedia.publishers.fm/article/12634/>

<http://bunkyo.keizai.biz/headline/356/>

3月4日(土) 14:00-17:30 ワークショップ「まちの元気・まちの健康を創発する住民交流とは」

http://www.shiminkagaku.org/30203020170617_ws/

3月26日(日) 13:00-17:00 駒込向丘エリアのミニまち歩き+ワークショップ「まち歩きの可能性を探る」

<http://www.shiminkagaku.org/30203020170216-2/>

当初、医療健康の専門家を招いての講演を定期的に入れていくことを計画していたが、健康まちづくりの事業は専門家・行政・住民・NPO、場合によってはそこに企業も入っての協働ですすめられるものであり、単独の医療・医学の専門家を招いての講座ではその趣旨を伝えることにならない、との判断のもと、全国各地にみられるユニークな実践例を、当事者を招いて紹介し、地元の行政関係者や地域住民と一緒に議論するワークショップを実施することとした(医療の専門家を招いての講座は、その専門家が提供する話題にもともと関心のある人しか集まらないだろう、という懸念が連携協議会で出されたことを受けての転換である)。

c)連続企画「健康まちづくり」カフェ(全10回)の実施

次のイベントを実施した。

2016年05月22日「まちの魅力を再発掘する—文京建築会ユースの活動から」(講師:栗生はるか)

2016年02月14日みんなのカフェ/市民科学講座Dコース「認知症について語り合おう in 文京(その2) 認知症にやさしいコミュニティケア」

2017年3月12日(日) 10:00-12:00 ワークショップ「いつまでも美味しく食べるために～飲みこむ力と老いを考える～」

2017年3月19日(日) 9:30-12:00 ワークショップ「食育の新しいアプローチを考える」

http://www.shiminkagaku.org/30104020170617_foodws/

2017年3月19日(日) 13:00-17:00 「塩」と「油」のワークショップ+「子ども料理科学教室」研修会

どれも少人数(数名から30数名)のワークショップながら、参加した方たちにとっては、非常に満足度の高いイベントになっていた。これをどう定期化して、長期間をかけて徐々に地域に「健康まちづくり」のイメージと主体的な活動への足掛かりを浸透させるのかは、まだ課題として残っている。

d)医療保健関係者・事業者へのネゴバトの周知と住民を対象とした実施

以下のイベントを実施した。参加者は総計で211名に達している。

2016/5/16 岡山大学看護学科の授業にて(48名)

2016/5/20 東大地域看護学教室地域看護研究会にて講演を併せて（20名）

2016/11/23、2016/11/26、2016/12/18 ネゴバト体験イベント実施（その1～その3）東大図書館セミナー室などにて（合計29名）

2016/1/20 大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻公衆衛生看護学研究室の授業にて（86名）

2017/1/24 東京工業大学附属科学技術高等学校ネゴバト体験会（21名）

2017/3/25 生活習慣病対策ゲーム「ネゴバト」体験会 文京区フミコムにて（7名）

多くの参加者を得られたことで、東京大学科学技術インタープリター養成プログラムの第11期生である江頭氏が終了研究の対象としてネゴバトを取り上げ、その解析をすすめることができ、最終的に論文（※）や次のサイトに掲載している成果報告（『市民研通信』所収）をまとめることができた。

※江頭真宏 「シリアスゲームを利用した生活習慣病対策 健康行動変容メカニズムの解析」（東京大学科学技術インタープリター養成プログラム11期生終了論文 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻博士課程）

<http://www.shiminkagaku.org/30301020170402/>

なお、3月25日のイベントの際には、横浜市健康福祉局の職員の方たち2名が参加され、今後行政の関連部署で展開していく可能性が出てきた。

e) 世代間交流食育のコンテンツの開発・試験的实施と特養施設での展開（全5回）

文京区内の民間の学童保育施設「ツリー・アンド・ツリー本郷真砂」及び「さきちゃんち」において、合計4回実施した。

<http://treeandtree.co.jp/topics/tp201606112/>

<http://treeandtree.co.jp/topics/tp201606211/>

<http://treeandtree.co.jp/topics/tp201606271/>

「さきちゃんち」は7月27日に実施したが、報告は以下のFacebookではまだ未登録

<https://www.facebook.com/sakichanchi/>

コンテンツ開発は「子ども料理科学教室」のスタッフが関わって実現することができた。認知症対策にもなり得る可能性を示した、意義深い試みとなったが、現時点ではまだ特養施設と学童を結ぶためのネットワーク化に成功していない。3月の第2回フェスタにおいては、食関連のイベントとして、次のものを実施した。

2017/3/11 目黒区で「親子でトライ！キッズ自炊のすすめ」

<http://ameblo.jp/reina-a/entry-12255948814.html>

2017/3/12 文京区でワークショップ「いつまでも美味しく食べるために～飲みこむ力と老いを考える～」

<https://www.facebook.com/mitakanutrition/posts/843522149118811>

2017/3/18 文京区で「お味噌作り講座」

2017/3/19 文京区でワークショップ「食育の新しいアプローチを考える」

http://www.shiminkagaku.org/30104020170617_foodws/

2017/3/19 文京区で「塩」と「油」のワークショップ+「子ども料理科学教室」研修会を実施した。

f) 「食育カード」の開発・制作と区内のレストラン等店舗での展開

文京区内の26店舗に「食育クイズ・カード」を置いてもらえることになった。その店舗のリストを以下に付す。

焼肉 YAKINIKU Lee Cook／洋食 アーティスト カフェ／パン アトリエ・ド・マヌビッシュ／そば 池の端 蕎麦／豆 石井いり豆店／うなぎ 石ばし／とんかつ 上野 井泉 本店／イタリア料理 ヴォーロ・コズィ／すき焼き 江知勝／和食 絵馬亭／鍋料理 旬菜料理 鍋家／タコ料理 たこや 三忠／そば 手打古式蕎麦／そば 手打そば 田奈部／インド料理 デリー上野店／天ぷら てんぷら天庄 湯島店本館／鳥料理 鳥つね／タイ料理 トンカーオ／フランス料理 南欧料理 ビストロ 西菜亭／うどん 根津 釜竹／おでん 吞喜／うなぎ はし本／串揚げ はん亭 根津本店／イタリア料理 ビストロ グラッソ／インド・ネパール料理 MALIKA インド・ネパールレストラン／甘味 みつばち

この交渉とカード配布に相当の手間を要した（「不可」となった店舗は約 80 店舗ある）。ただし、訪れた客がカードをみてどう反応し持ち帰ったか（どのカードがどれくらい減ったかも含めて）は、マンパワーが足りず、調べていない。ホームページにその中身を公開しているが、

<http://www.shiminkagaku.org/20300020161007/>

<http://www.shiminkagaku.org/30104020161007-2/>

アクセス数は 800 に達している。

g) 「地域サイエンスマップ（健康まちづくり）」まち歩きの実施（全 10 回）

まち歩きイベントを今年度は 10 回実施している。これらは毎回下調べ（歩きを含む）と、まち歩きの際に訪問してお話を聞かせてもらう方々（店舗、団体、個人など）への事前取材を行うことになり、かなりの労力を要するが、地域の事情を詳細に把握することにもつながる点、そして開発した IT システムを応用できる点、そして何より参加者（遠方からの者も含む）がまちとまちの人々への愛着を深めることになる点など、「健康まちづくり」事業の中核に位置づけることができる。4 月以降に、目黒区と草加市でこの「健康まちづくりまち歩き」の手法を使って、それぞれの地域の方々との共催で実施する計画を立案している。

なお、この「まち歩き」の意義について、市民科学研究室の上田は機関誌『市民研通信』において連載を開始している。

「「まち歩き」を中核にした総合イベントの可能性」

<http://www.shiminkagaku.org/30203020161220/>

<http://www.shiminkagaku.org/30203020170216-2/>

【健康まちづくりまち歩き 実施一覧】

2016 年 6 月 22 日（日） 10:00-15:00 第 1 回 文京区、湯島・本郷界限、東京大学構内

2016 年 7 月 30 日（土） 13:00-18:30 第 2 回 文京区内小石川界限

2016 年 8 月 18 日（木） 市民科学研究室 + ツリーアンドツリー本郷真砂

夏休み special 自由研究サポート 子どもまち歩き

2016 年 8 月 31 日（水） 12:30-18:30 第 3 回 文京区駒込界限

2016 年 10 月 29 日（土） 13:00～18:00 第 1 回健康まちづくりフェスタ in 文京・台東

（湯島→本郷（東大）→向丘→千駄木 のまち歩き、途中で食と運動のワークショップ）

2016 年 12 月 27 日（火） 第 4 回 13:00-16:00 谷中界限

2017 年 1 月 26 日（木） 第 5 回 13:00-16:00 神田川沿い（日本医学教育歴史館を含む）

以下の 3 つは第 2 回「健康まちづくりフェスタ」のイベントとして

2017 年 3 月 5 日（日） 第 6 回 13:00-16:00 目白台界限

2017 年 3 月 11 日（土） 音声ガイド／思い出覗き窓 東大構内・医史学散歩体験会

2017 年 3 月 26 日（日） 駒込向丘エリアのミニまち歩き＋ワークショップ「まち歩きの可能性を探る」

h) 夏休み自由研究サポート（地域サイエンスマップまち歩き体験会）

上記「ツリー・アンド・ツリー」と連携して、「文京ふるさと歴史館」にもご協力いただいて、夏休みの学童を対象に「まち歩き」を実施した。子供向けの夏休み企画として実施した。まち歩きの楽しさと、歩く途中で「発見」したものを科学の目で見直してみる（子どもたちの意見交換をしながら）ことの面白さを体験してもらえたと思う。以下に報告を掲載している。

http://www.shiminkagaku.org/203000_20160902/

これは、全国でも珍しい試みだと思われるが、うまく設計すれば「地域を知る」「科学にふれる」という点でも非常に教育効果の高い手法であることが実感された。今後、より拡張した形で恒常的なイベントとして実施できないかを検討している。

③StageⅢ：健康まちづくりフェスタの実施

a) 「健康まちづくり 秋フェスタ in 文京」を実施（10月、2つのエリアで）

2016年10月29日（土）13:00～17:00に第1回「健康まちづくりフェスタ in 文京・台東」として、以下のような要領で実施した。

1. 「まち歩き」（30名まで）と「ポールウォーキング」（1回20名までで2回）に分かれて実施した。
2. 「ポールウォーキング教室」は文京区目白台運動公園にて、公園側スタッフと連携して、今後文京区でポールウォーキングを普及させていくことを視野に入れて、日本ポールウォーキング協会の平岡裕美子さん（マスターコーチ）の指導で、午後に2回の体験教室を実施した（1回目13:00-14:30、2回目15:00-16:30）。
3. 「まち歩き」は文京区の湯島→本郷→千駄木エリアの見どころを、医療保健・住民活動などのスポットも含めて散策した（まち歩きのガイドは、眞鍋じゅんこ氏と権上かおる氏）。
4. 「まち歩き」は13:00-17:00の間に、A地点（集合場所）→B地点（食のワークショップ会場）→C地点（運動のワークショップ会場）→D地点（解散地点）のコースを約1時間40分かけて歩いた。
5. 食のワークショップでは、新規に開発した「塩と油に関するワークショップ」を実施した。担当は小林友依氏（市民研、管理栄養士）。運動のワークショップでは、場所を地元の光源寺（駒込大観音）さんにその境内をご提供いただき、高山祐輔氏と鈴木隆人氏（Total aid station）にご指導いただいた。
6. 「まち歩き」の随所に新しいITシステム「思い出覗き窓」と、最後のコースに「GPS音声ガイド」を組み込み、参加者全員に体験してもらえるようにした。

参加者は、「まち歩き」グループ23名、「ポールウォーキンググループ」6名と小規模であったが、それはまち歩きを主体とする以上、定員を30名に限定せざるを得なかったという事情が大きい。

参加者の感想は以下のようにまとめることができる。

全体としては、「屋内でのイベントと外歩き、体操との組み合わせはメリハリがあってよかったが、イベントが多く、もう少しゆっくりいろいろと体験をしてみたかった」という意見が多かった。食のワークショップについては、「身近にある油と塩についての学べる場となっていた」「油は市販されている油を9種も試食ができ、クイズ形式で油の種類を学び、日常の食生活の油の質を高めるヒントを得られた」「塩ではどのくらい自分で摂っているのかを学び、どうしたら減らせるのかを考えさせられた」といった感想が寄せられた。運動のワークショップについては、「手軽に行えるストレッチや良い姿勢で歩くコツを知ることができた」「日常生活に取り入れやすいため、継続的に楽しく体を動かせるようになる」との意見が多かった。音声ガイドを利用した街歩きについては「GPS付き端末を持ち、説明ポイントに近づくと、場所に合わせた音声ガイドが流れ、わかりやすく観光地

情報を知ることができるが、観光ガイドとは異なり、自分のペースで歩き学べるツールを体験できた」との意見をいただいた。

b)「健康まちづくり 春フェスタ in 文京」を実施（3月、2つのエリアで）

3月の「第2回健康まちづくりフェスタ」は、第1回と様式を変えて実施することになった。すなわち、実施日を、3月の土日の午前午後をすべて埋める形でイベントごとに分散させて組み、そのうち数回を目黒区区議の山本ひろこ氏との共催で実施することとなった。

【イベント一覧】

3月4日（土） 14:00-17:30 ワークショップ「まちの元気・まちの健康を創発する住民交流とは」
3月5日（日） 10:00-12:00 ポールウォーキング体験会 in 文京
3月5日（日） 13:00-16:00 目白台・江戸川橋界限まち歩き
3月11日（土） 11:00-14:00 親子でトライ！キッズ自炊のすすめ
3月11日（土） 14:00-17:00 「音声ガイド／思い出覗き窓」東大構内・医史学散歩体験会
3月12日（日） 10:00-12:00 ワークショップ「いつまでも美味しく食べるために～飲みこむ力と老いを考える～」
3月12日（日） 13:00-15:00 姿勢・歩き方・下肢筋力のトレーニング体験会
3月18日（土） 10:00-12:00 中目黒ポールウォーキング
3月18日（土） 10:00-15:00 お味噌作り講座
3月19日（日） 9:30-12:00 ワークショップ「食育の新しいアプローチを考える」
3月19日（日） 13:00-17:00 「塩」と「油」のワークショップ+ 「子ども料理科学教室」研修会
3月25日（土） 10:00-12:00 生活習慣病対策ゲーム「ネゴバト」体験会
3月25日（土） 13:00-15:00 姿勢・歩き方・下肢筋力のトレーニング体験会
3月26日（日） 10:00-11:30 子どもランニング・クリニック in 中目黒
3月26日（日） 13:00-17:00 駒込向丘エリアのミニまち歩き+ワークショップ「まち歩きの可能性を探る」

参加者総数は第1回29名、第2回166名となり、合計で195名であった。当初の目標である200名をほぼ達成したとは言えるが、フェスタ全体の運営の主体を区の行政や町会・自治会などに移行できるようにしていくという意味でのネットワーク化は、個々のイベントについて若干その可能性が出てきたものもありはするものの、限られた期限内では大変難しいことが判明した、というのが実状である。

3. 活動実績

【H27年度】

(1)「ネゴバト」ワークショップ5回（7月～3月に隔月に1回程度）

これは、文京区民を対象に文京区内で実施したものとしては、1回（文京区主催の「NPO活動PRフェア」にて）に限られるが、企業で（ANACago社）、日本公衆衛生学会で（「自由集会」の一企画として主催）、高校で（東工大付属科学技術高校）、そして科学コミュニケーションを論じる研究会で（STS Network Japan主催の「健康とコミュニケーション」に関する研究会）、と合計5回実施した。これらを経て、ゲームパッケージとして完成させることができると同時に、保健関連部署での導入方法や、本事業についての活用方法なども検討し始めている。

(2)「子ども料理科学教室」15回（立川市ですでに始まっている企画の10回分を含む）

NPO 法人ポラン広場との共催で立川市で実施したのは、期間中に7回であり、期間以前の3回を含めると10回になる。食育プログラムの改訂を終了することができた。すでに、小平市中央公民館からリクエストをいただき、2月に3回連続で「キッズ講座」企画として実施中である。また、この食育プログラムを本フェスタ事業で地域の事情にあわせて展開するアイデアとして「世代間交流食育」のプログラムを考案し、文京区内で学童保育事業をすすめる「(株) ツリーアンドツリー」と提携して、試験的实施を開始している。

(3)「地域健康談話会」5回（7月から隔月で1回程度）

この形態でのイベントは、2月14日に実施する「認知症について 語り合おう in 文京」が第1回目となる。これは、今後も適時開いていく連続的なワークショップとして位置づけており、文京区の地域包括支援センターらにも連絡を取り、事前のネットワーク作りを行いながら、慎重に進めている。地域の事情と健康のあり方については、連携協議会とかねての研究会を月1回のペースで継続している。健康に関わる谷根千地域のソーシャルキャピタルとして、「まちづくりイベント」などを企画・運営を含む住民活動、銭湯、お寺の3つに焦点をあてて、具体的なヒアリングと現場調査をすすめるとともに、文京区の「まち歩き」の企画立案も行ってきた。8月19日と20日の2日間で実施した「Let's! 谷根千まち歩き」と、1月24日に実施した「ぶらり本郷まち歩き」は、いずれも参加者（20名ほど、医療関係者を含む）には大好評で、“健康まちづくり”の意義を具体的に共有することができた。

(4) 食・睡眠・運動・認知症などの「最新医学講座」各1回で計5回

認知症については、これまで区の担当部署への取材や講座・講演会に参加しての情報収集を経て、ワークショップ「認知症について 語り合おう in 文京」（2月14日）にまでこぎつけることができた。当初考えていた「最新医学講座」という形態は、2月14日のワークショップの経験を経て、専門家・専門的知見と地域の住民がどうインタラクティブにやりとりできるようにするかを再設計することになった。より具体的に、このフェスタ事業の中での形態を描き出せた段階で、当初予定していた各医学分野の専門家とのコンタクトを取り、参加を要請することになっている（来年度の早い段階で実施予定）。

(5)「地域サイエンスマップ」の原案の完成と学童向け自由研究サポート事業（7,8月）

自由研究サポートは、今年度の7,8月の段階では、「地域サイエンスマップ」の情報もまだ収集し始めたところだったので、実施することはできなかった。だが、7月から12月にかけての20回に及ぶ、区内の各種関連団体、区の担当部署、区議、そして他地域の行政や諸団体などへのヒアリング、そして、「まち歩きイベント」での経験によって多くのネットワークを築くことができ、その結果として、マップに落としこむことができる、多くの地域の情報を得ることができた。それには、医療やサイエンスに係る情報も含まれる。さらに、新しいICT技術やシステムを“まちづくり・まち歩き”に活用する視点から幾人かの研究者とのネットワークを築けたこともサイエンスに直結する取り組みであり、フェスタでの「ウィーキング/まち歩き」あるいは「認知症予防」に活かす方向で、協議を始めている。

(6) 11月に「地域ウォークラリー」の試験的实施（親子を含めて60名の参加）

上述した種々の変更の理由とも関連するが、「いかに緊密なネットワークを築くか」「地域の事情をしっかりと把握したうえで、行政なり、住民団体なり、町会や商店組合なり、にとって有益で魅力的な地域課題解決の方法を示すか」をしっかりとふまえないと、単発的で、参加者も少なく、影響力の小さい、孤立したイベントに終わってしまう恐れがあることが、事業をすすめるにつれて、ますますはっきりしてきた。さらに、新しいIT技術を導入しての「まちを歩くことの新しい魅力を創造する」のアイデアが具体化しつつあるので、その試験的实施の機会を先行させる必要もある。そこで、今年度は、事業に関わ

る提案機関・参加機関の関係者を中心に、提携する研究者、関心を持ってくれている行政担当者など総勢 20 名ほどで、試験的な「地域ウォークラリー」を 3 月 27 日に実施することとした。そこでは、私たちが取材や調査でその有効性や意義を知ることとなった“ポール・ウォーキング”も取り入れることにしている。

(7) 運営協議会 6 回（7 月から隔月で 1 回から 2 回）

地域の健康に関する諸事情・諸問題を検討する研究会をかね、本日の運営について協議する「連携協議会」を月 1 回ペースで実施している。

(8) 文京区の行政、教育関係、企業、商店、自治会などへの渉外活動（多数回）

教育関係と自治会への直接の働きかけは未着手だが、それらへの働きかけをサポートしてもらえそうな多くの方々とネットワークを築くことはできている。【項目 9】に記したとおり、30 ほどの諸団体・個人と連携を築けている。

【H28 年度】

(1) 「健康まちづくりカフェ」第 1 回「まちの魅力を再発掘する—文京建築会ユースの活動から」

(2) 「健康まちづくり講座」第 1 回「銭湯でまちつなぎ—月の湯をしのび、銭湯の地域力について語り合う」

(3) 「健康まちづくりまち歩き」第 1 回 湯島・本郷エリア／第 2 回 健康まちづくりまち歩き（小石川界限）／第 3 回 健康まちづくりまち歩き（駒込界限）／第 4 回 健康まちづくりまち歩き（谷中界限）

(4) 岡山大学医学部看護学科における授業にてネゴバトの実施

(5) 東京大学医学部保健学科「地域看護研究会」にて講演及びネゴバトの実施

(6) ネゴバト体験イベント（3 回）

(7) 世代間交流食育（4 回）「おせんべい」「いも」など

(8) ポールウォーキング体験会 第 1 回文京区立目白台運動公園にて／第 2 回「文京区立目白台運動公園フェスタ」にて／第 3 回中目黒公園にて

(9) 夏休み自由研究サポート 本郷地区子どもまち歩き

(10) 第 2 回 認知症について語り合おう in 文京（その 2） 認知症にやさしいコミュニケーション

(11) 谷中芸工展 2016 にて「まち歩き IT システム」の披露（15 回）

(12) サイエンスアゴラ 2016 にて「思い出覗き窓」体験ブースの出展（2 回）

(13) 第 1 回「健康まちづくりフェスタ in 文京・台東」の実施

など 計 38 回

4. ネットワークの活用・構築の達成状況

最終的には本事業（の一部）を区の予算に組み入れてもらって区の事業化するといったところにまで進めていけることが理想であるが、それを目標としつつも、そこに至るまでの様々な段階で、協力や支援を取り付けることができるかどうかの問題となる。本年度に、取材をかねた本事業の紹介、区主催の個別イベントの実行委員会への参加と当日の出展、本事業の個別イベントでの広報への協力や区職員の見学・問い合わせなどが実現できた部署を以下に記す。

文京区区民部協働推進担当／文京区高齢者あんしん相談センター本富士（本富土地域包括支援センタ

一) /文京区健康福祉課/文京区保健師・川田美弥子氏/文京区教育センター/文京区社会福祉協議会・文京区民センター「フミコム」/文京区保健サービスセンター

(2) 文京区区議からの支援 及び 目黒区区議との協同での事業推進

藤原美佐子氏（文京・生活者ネットワーク）および梅津敦子氏（無所属）には、文京区の抱える様々な問題とその背景をご教示していただき、本事業の推進していくうえで支援をいただけたような団体や個人をご紹介いただくことになる。山本ひろこ氏（目黒区区議）からは協同で目黒区で事業をすすめたいとの意向がこちらに伝えられ、数回の打合わせを重ねて、3月の開催に至った。

(3) 地域の様々な活動を担う諸団体からの支援

本事業を進めていくうえで、「健康まちづくり」に関連して「どこにどのようなソーシャルキャピタルがあるか」「どこにどのようなニーズがあるか」「どのような取り組みが効果的か」といったことを一緒に議論し、示唆をいただくことになるのが、以下の諸団体である。とりわけ「まち歩き」について、様々なアイデアをいただき、取材に応じてくださったり、自らまちを案内してくださったりした方々も多い。文京アカデミア生涯学習司の会/文京映画交流クラブ/NPO 法人本郷街 ing /谷中芸工展/光源寺（住職・島田夫妻）/NPO 法人地域ネットワークとらいあんぐる/（株）ツリーアンドツリー/文京建築会ユース/日本医療機器協会/株式会社セントラルユニ（「マッシュアップスタジオ」）/「医史学散歩」主宰の堀江浩司氏/東京大学総合研究博物館+三河内彰子+大場秀章氏（植物学）/みんなの保健室「陽だまり」（服部満生子氏・代表、草加市）/「おくすり処花水樹」船坂氏（薬局店主）/文京区訪問看護ステーション「けせら」/「日暮里富士見坂を守る会」/矢野安重氏（仁科記念財団・常務理事）/文京ふるさと歴史館/多摩区役所保健福祉センター/大田区みまも/千葉県緑保健福祉センター健康課/塩竈市保健センター/浦安市包括支援センター

(4) 生活習慣病対策ゲーム「ネゴバト」の運用サポート支援

本年度に「ネゴバト」を実施する機会をご提供いただいた以下の諸団体には、本事業において「ネゴバト」をどう医療保健関係者に対して利用してもらうかといったことに対して、様々な助言や支援をいただく。

東工大付属科学技術高校（担当教員・五十嵐寿子氏）/ANA Cargo 社・総務人事課/東京大学医学部地域看護教室/大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻公衆衛生看護学研究室の岡本玲子准教授

(5) 「子ども料理科学教室」を主たるツールにした食育活動での支援

子ども料理科学教室は事業化の見通しが立ってきた。地域での展開をはかる、もしくは地域に住む、食育への関心の深い方々にスタッフとして関わってもらう、ために、以下の諸団体と協議をすすめている。また今後の活用をどうはかっていくかは未定だが、文京区内の 26 店舗に「食育クイズカード」を置くことを受け入れてもらった。

NPO 法人ポラン広場/（株）ツリーアンドツリー/「学びの食卓」プロデュース/さきちゃんち/目黒区自由が丘「魚菜学園・よみうりカルチャーセンター」/文京区内の店舗 26 店（「食育クイズカード」の手配）/麻生玲奈氏（食生活アドバイザー協会認定講師、日本大学生物資源科学部非常勤講師（日本食文化史/おいしさの科学））/近藤恵津子氏（NPO 法人コミュニティスクール（CS）・まちデザイン 理事長）/田中由美子氏（子育て kitchen グループ）/武藤麻代氏（『学びの食卓』プロデュース）

(6) 主として「運動」に関連する実践的・専門的支援

ポールウォーキングを活用した、全国でも先進的な「健康まちづくり」をすすめている自治体の担当部署や、運動指導によって健康づくりを上手にすすめている専門家らから、フェスタ事業に組み入れることになる「ウォークラリー」での設計・運営に関して様々な助言や実際の支援をいただく。

Total aid station／一般社団法人・日本ポールウォーキング協会／文京歩こう会／志木市健康づくり支援課／

目白台公園パークセンター（(株) 西部パートナーズ）／「ポール de ウォーク大学@きょなんゼミ」（千葉県鋸南町地域包括支援センター）／神野宏司氏（ライフデザイン学部健康スポーツ学科教授）

(6) 新しい IT 関連技術で「健康まちづくり」の魅力と効果を高める取り組みでの提携

3D 技術による「ヴァーチャルタイムマシン」、「位置情報付き自然言語データ」の収集および分析・活用などを本事業のラリーイベントに取り込むことで、イベントの魅力と効果と高める。連携しての試験運用から始める。

博報堂・金ジョンヨン氏／谷川智洋准教授（東大工学部）／京都大学・100ninmap project／日本科学未来館

5. 成果及び波及効果

(1) 「健康まちづくり」の先進的な事例は全国各地に散在する。そのことを文献調査や学会やイベントへの参加や場合によってはヒアリングで確かめてきたが、それを系統的に紹介したり、別の地域で学び生かせるように議論する場を設けたり、というやり方をいまだ確立していない、と言える。「健康まちづくり講座」「健康まちづくりカフェ」はそのためのイベントであるのだが、一定の参加者を集め、それぞれのイベントは参加者の満足度は非常に高かったものの、行政関係者やまちの有力者（町会や商店街の）をどう巻き込むかが見えない。2017 年 3 月の第 2 回フェスタにおいて実施した「健康まちづくりワークショップ」は綿密な取材をベースにしての、千葉県、埼玉県、大田区から関係者を招いて議論をすすめたが、何度も声がけして招待した地元文京区からの関係者の参加はなかった。

(2) 個別のイベントについては、上記の「講座」「カフェ」を除いて、まずまず順調にすすみ、手法としての有効性もある程度まで検証できたと思われる。すなわち、

1) 中核となる「健康まちづくりまち歩き」では

① 「まち歩き」と「医学・医療・保健に関わる様々な地理・歴史的あるいは現状のデータ」のそれへの組み込み

② “まちを元気にする地域の活動やそれを担う人々”を事前に発掘し、それを「まち歩き」に組み込むこと

のやり方が、回を重ねながら、確立してきた。それぞれのまち歩きイベントは平日に行ったものが多いので、参加者が少数だが、企画側にとっては非常に貴重な経験となった。このノウハウをもとに、目黒区や草加市やその他の地域で展開がはかれるようにしたいと考えている。

2) 「ネゴバトイベント」「食育系イベント」「運動系イベント」では、

① 「生活習慣病対策ゲーム」「塩と油のワークショップ」といった新規に開発したツールが、リクエスト

さえあればいつでも実施できる体制になっていることが一番の成果だろう。また

②ポールウォーキングという転倒予防・足腰の虚弱化の予防に大変有効なツールは、まちぐるみの取り組みを始めている自治体もあることからわかるように、全国的に普及に兆しが見えてきているので、地域の事情に即して効果的な導入をはかることが肝心であること

が見えてきたので、文京区での経験をもとに目黒区や草加市ではうまく導入をはかるようにしたいと考えている。

さらに、「子ども料理科学教室」のように、企業からの依頼によって収益事業化が見込まれるようになるものも出てきているので、「行政の予算への組み込み」「民間団体の出資」「参加住民からの参加費徴収」「企業との連携による事業化」などそのそれぞれの可能性を予め検討してことも必要になるだろう。

(3)「まち歩き」に生かす新しい IT システムの開発に関しては、思いのほか低予算ですすめることができた。iPhone を用いての「GPS 連動音声ガイド」のアプリケーションは半年ほどの試行錯誤を経て、ほぼ安定して動くものとすることができた。すでに「谷中芸工展」と「第 1 回建国まちづくりフェスタ」で披露し、参加者から好評を得ている。東京大学工学部谷川智洋研究室が開発したタブレットを使う「思い出覗き窓」は、それを「音声ガイド」とどう組み合わせるか、そしてまちの資産である（各所に眠っているであろう）景観写真をどう収集して組み込むかという重大な事案を抱えているが、その点についても、2016 年にまち歩きをすすめながら、多くの団体との協議を重ねてきた結果、今後の見通しが得られている。おそらくこの 2 つの IT システムを活用した「まち歩き」（まちの歴史的・地理的資産の発掘とその魅力の伝達）は全国的にも注目される、新たな事業に発展させることができると考えている。

6. 自己評価

各種イベントについては、当初の企画から別の企画に変更を加えたものがあるので、予定通りかどうかの判断が難しいものも含まれるが、イベントの総数や参加者数の点でみる限り、当初の目標に大きく及ばないものは見当たらない。個々のイベントに参加した参加者の満足度も非常に高いものが多い。問題は、ネットワーク化がほとんどすべてのケースで、実施主体である市民科学研究室とそれぞれの諸団体との個別のつながりにとどまっていた、それらの団体間での新たなつながりや、あるいは行政・学校・自治会・商店組合といった地域の人々を相互に結ぶ場を持つ組織や団体の活動に組み入れてもらえるようなつながりにまで、発展させることができなかった点であろう。

この事業の最大の難点は、a)保健・医療にかかわる事業は行政側にしてみれば専有事項であり、行政が展開している事業の限界や難点を行政自身が自覚しない限り（あるいは住民や議会からそれを指摘する声が大きくなりえない限り）、外部からの働きかけによって変更したり、外部団体と「協働」したりすることはまずない、という壁があること、b)行政のなかでも、「母子保健」「福祉」「介護」「健康推進」「食育」「運動」「福祉」「観光」……と縦割りが強く、その枠を超えた総合的で住民のニーズに幅広く応えるようなイベントや事業を組める体制には、基本的にはないこと、であろう。ただ、全国で、例えば地域の保健師たちが立ち上げたりしている、行政と住民団体や学術団体などが協働しての「健康づくり」の事例は増える傾向にあり、それを知っている行政も少なくないが、実際にそうした事例の手法を取り込んでいこうとするには、行政内部で検討する時間と労力が必要で、外部からの呼びかけでそれがすぐに実現する可能性は小さい。

このような現状があるなかで、「健康」を掲げる以上、どれほど素晴らしいアイデアやツールであっても、行政と組まなくては効果的な普及や展開が望めない、ということにあると考えられる。文京区では、社会福祉協議会やヒアリングをさせていただいた数名の保健師さんらを中心に、「フェスタ」に関わる事業の協働を持ちかけてきたが、その反応は芳しくない。また、町会への働きかけも「食育カード」の配布のお願いと併行して行ったが、「医療・保健・健康」に関わる新しいビジョンのもとでの活動に協力を得ることは一通り一遍の広報への協力を除いて、私たちが地元住民の支持や参加が持続的に得られるような形で地元において持続的な活動を長期に渡って展開していかない限り、大変難しいだろうと思われる。

7. 外部評価

兵藤好美氏（岡山大学大学院保健学研究科看護学分野基礎看護学領域・准教授）に外部評価していただいたが、まず平成 27 年度の活動については、本事業内で複数の取り組みを同時並行ですすめることから、それらをどう関連付け、いくつかの健康指標をどう打ち立ててそれらの取り組みの効果を捉えていくかについて、貴重な助言をいただいた。「運動としてみたウォーキングの手法」「まち歩きを魅力を高める手法」「食をとおしての地域のつながりの手法」「交流の場を設けることで健康意識の向上させる手法」という形で整理し、それぞれについてネットワークを構築しつつ、相互に関連付けられるように、行政の保健部署での人脈（例えば、看護学科での「ネゴバト」の実施は、その学科のスタッフのなかには地域医療の現場で働く先輩を持つ者が多いので、その先輩を紹介してもらうことで、地域の現場への関わりを作る、など）も積極的に活用すべき点などを指摘いただいた。

次に平成 28 年度の活動については、以下の文書による評価をいただいた。

1. 「健康まちづくり」を創発する協働型市民フェスタ事業の推進

代表者による昨年度の自己評価において、“「いかに緊密なネットワークを築くか」「地域の事情をしっかりと把握したうえで、行政なり、住民団体なり、町会や商店組合なり、にとって有益で魅力的な、地域課題解決の方法を示すか」をしっかりとふまえないと、事業全体が単発的で、参加者も少なく、影響力の小さい、孤立したイベントに終わってしまう恐れがあることが、事業をすすめるにつれて、ますますはっきりしてきた”と述べられている。

今年度の実績からは

- 1) 参加機関数、実施回数とも前年度の 2 倍近くに増加しており、アクティブな行動が見られている。
- 2) 活動内容も多岐にわたり、積極的な展開が行われたことが伺われる。これらの結果から、昨年度の反省を踏まえた改善が行われたものと推察される。

2. 「地域」「科学」「健康」の相互関連を見据えた枠組み下での、3 段階の活動展開

1) Stage I：連携機関による地域調査とそれをふまえた Stage II、Stage III の詳細設計

「健康まちづくり講座」「健康まちづくりカフェ」事業は、一定の参加者を集めており、それぞれのイベントについて参加者の満足度が非常に高かったことは、評価すべきことである。

ただ代表者がまとめて述べているように、“保健・医療にかかわる事業は、行政が展開している事業の限界や難点を行政自身が自覚しない限り（あるいは住民や議会からそれを指摘する声が大きくなり、外部からの働きかけによって変更したり、外部団体と「協働」したりすることはまずない、という壁がある。”

行政と組むことにより効果的な普及や展開を諮ることと、地元住民の支持や参加が持続的に得られるような形での着実な活動を、継続していくことが望まれる。

2) StageⅡ：各種イベントの実施とその成果の StageⅢへの反映

「ネゴバトイベント」「食育系イベント」「運動系イベント」

「ネゴバトイベント」「食育系イベント」「運動系イベント」事業においては、確実な成果を出すことが出来ている。

特に①「生活習慣病対策ゲーム」「塩と油のワークショップ」が、リクエストさえあればいつでも実施できる体制になっていることは、今後の活動拡大にも繋がっていく注目すべき成果である。②のポールウォーキングについては、代表者のまとめにもあるように、行政への働きかけから始めるのではなく、事業に賛同し支援してくれる区議の方と連携し、その区議が持つ地元とのつながりを生かして、事業を展開していくことが重要となると思われる。

また、全国の先進的な「健康まちづくり」の事例を、効果的に紹介し、地域の意識の高い住民や行政関係者を交えて議論する機会を頻繁に入れていくことを次年度への改善案としており、是非実践して欲しい。先進的な取り組みの事例を、当事者にご報告いただき議論するというアイデアも、斬新で面白い。

全体を通して事業への取り組みが計画的に行われており、また取り組み後の自己評価も的確に行われている。加えて今後の改善や展望についてもしっかりと記載されており、堅実で発展性が期待される。

3) StageⅢ：健康まちづくりフェスタの実施

「まち歩き」への応用を見込んだ新しい ICT システム（iPhone を用いた「GPS 連動の音声ガイド」の開発と、東京大学谷川智洋研究室の開発した「思い出覗き窓」の効果的な組み込み）は、それ自身が他事業（場合によっては収益事業）への展開が可能となることで、素晴らしい取り組みである。「まち歩き」に生かす新しい IT システムとのコラボレーションは、2018 年以降の活用の見通しても出ており、将来の「まちづくり」に重要な示唆を与えてくれる事業となろう。

「健康まちづくりまち歩き」の企画をとおして、多くの方々と知り合うことによって、次の企画構想にも繋がっており、「地域」「科学」「健康」の相互関連を見据えた事業として興味深く、ネットワーク形成事業として、今後の発展性が期待される。

これらの事業の取り組みは地道であり、一方 多くの人の労力と時間を要する活動である。自発的なこれらの活動は地域への郷土愛と、限りない探究心、および 人と人との温かいネットワークに支えられており、今後の地域活性に繋がっていく貴重な活動であると思われる。

外部評価：A++

8. 成果の展開、発展させるビジョン

(1) 全国の「健康まちづくり」の先進事例を収集し、それらを適切な分類・類型化をはかりつつ効果的に紹介し、地域の関心ある住民や行政の関係部署の方を交えて、率直な議論ができる機会を継続的に設けていく。

(2) 「健康まちづくり」事業は、それぞれの地域の特性や事情が絡むため、一律に広げていくことは難しい。そこで、他地域への拡張に関しては、行政への働きかけから始めるのではなく、この事業に賛同し支援してくれる地方議員やその議員が持つ地元とのつながりを生かしたり、この事業に賛同し支援してくれる民間団体（NPO などを含む）と連携してその民間団体が主催している住民の集いの場を起点にしたり、さらには (1) をとおして地域の意識の高い住民や行政関係者を交えて議論する機会を頻繁に入れつつ事業化の構想をともに考えたり、というところから始めるのが妥当だと思われる。

(3) “思い出覗き窓”という AR システムや GPS 音声ガイドシステムをも導入しながら、まちの中のソ

ーシャルキャピタルの掘り起こしと紹介を、そのまちに住まう住民の中でそうした事業に関心を持つ人がいれば、そうした人を中核にいつでもすすめていけるような、「健康まちづくりまち歩き」企画の事業パッケージ化をはかり、まちづくりに関わってきた様々な団体や NPO や行政部署など提供したり、委託を受けたりしながら、いろいろな地域でそれぞれに展開していけるようにする。

(4) 市民科学研究室が担ってすすめていく見通しがたっている事業としては次の 2 つがある。

- ・目黒区ならびに草加市での「健康まちづくりまち歩き」事業の展開

目黒区では「坂道とその歴史的由来」を軸にして、草加市では高齢者住民が持ち寄った「思い出写真」を“思い出覗き窓”に取り込みそれに音声の“語り”を重ねて「思い出散歩道マップ」を作ることから始めて、この事業をすすめていくことになる。

- ・上記 AR と GPS 音声ガイドシステムの事業化

これは現在各所で注目を集め、システム導入の話がいくつも持ちかけられている。事業相手の名はここには記さないが、大学キャンパスガイド、地域イベントガイド、地域の景観保存、植物園、博物館などで、屋内・屋外ともに使えるこのシステムの導入の検討が始まっている。